

令和6年度地域生涯学習活動実践交流セミナー実践発表（空知管内）

夕張市教育委員会教育課社会教育係
社会教育主事（主任） 工藤有咲

・空知管内テーマ：多世代交流 『異なる事業をつないで世代をこえる場づくり』

0. 自己紹介 2分

- ・2018年に地域おこし協力隊として夕張市へ移住
- ・2021年に市職員として入庁
→計6年間、商工観光を担当
- ・2024年春に市教委へ異動
- ・2024年夏に社会教育主事講習受講
- ・2024年秋に社会教育主事発令
→社会教育担当1年目



1. 夕張市の概要 3分

- ・面積：763.07 km²、人口：6,083人（R7.1現在）
- ・学校数：小中高各1校ずつ
- ・児童及び生徒数：小128名、中89名
(それぞれ特別支援学級を含む)
- ・拠点複合施設りすたを中心とした市内位置図
- ・交通アクセスの現状



2. 拠点複合施設りすたを中心とした社会教育 6分

●りすたの概要（施設設備）

- ・施設内：りすた図書館、ゆうぱりっこひろば、多目的ホール、多目的室×3（防音室有）、学習室、待合交流スペース、展示ギャラリー、キッチンスペース、教育・保育手続き窓口、市役所南支所（戸籍等）、ATM
- ・付帯施設：バスロータリー、駐車場（約120台）、緑地スペース



●りすたでの生涯学習や施設の利活用

- 例1：高齢者学級の市外視察時、公設塾の美術講座を受講する**高校生へ呼びかけ**を行い、3名が参加
- 例2：りすた Challenge 事業で生まれ、自走する「まちあいカフェ」を各**社会教育事業と掛け合わせ**
- 例3：長期休みの小学生を対象とした朝活キッズの講師を**地域おこし協力隊**（体育協会支援）へ依頼





●課題と令和7年度の展望

課題：りすたを訪れ、各社会教育事業に参加する市民が同じメンバー

展望：市民学習講座と高齢者学級の共同開催を企画、多世代交流と高齢者学級のハードルを下げる

3. 地域学校協働本部や学校運営協議会を中心とした社会教育 ⌚6分

●夕張市の地域学校協働本部及び学校運営協議会のあゆみと現在の体制

・2008年 学校支援地域本部事業「夕張市学校支援地域本部」設置

・2018年 夕張市「学校運営協議会」に組み込まれ、「夕張市地域学校協働本部」となる

●令和6年度の事業実績

例1：地域コーディネーターとボランティアを活用した芸術文化体験教室、昔遊び体験事業

例2：学校運営協議会で意見の出た食育をテーマとした牧園体験、こども食堂との共同開催



●課題と令和7年度の展望

課題：設置当初と地域や学校の状況（学校数や児童・生徒数、りすたの誕生等）が大きく変わった

展望：委員数を24名→11名へ、**持続的に運用可能な体制へと縮小予定**。地域の規模が変わっている
ので、活動はこれまでどおり実施できる見込み。少人数で、より密な意見交流を期待

4. 1年目の自分が学んだこと ⌚3分

★学習者の動機は何だって良い

→**動機の接点を探ることが、社会教育主事の役割。異なる事業をつなぎ、世代をこえる場づくり**

★有名予備校講師の林修氏「努力は裏切らない、という言葉は不正確だ。正しい場所で、正しい方向で、十分な量なされた努力は裏切らない」

→**地域にとって適切な場所で、地域に合ったやり方で、適切な回数を粘り強く！**

（社会教育は直ぐに結果が見えづらく、KPI等の数値指標で計りきれない。一貫性が大事）